

新規就農者の茶生産の安定化による技術習得

対象者 甲賀市信楽町 S 氏

【普及活動のねらい】

S 氏は兵庫県出身で、甲賀市信楽町朝宮地域の農村風景と伝統の朝宮茶生産に魅了され、平成 26 年から宮尻地区に定住された、いわゆる「I ターン農業者」です。これまで、地域の専業農家の下で茶園管理作業のアルバイトをしながら、平成 28 年からは約 70a の茶園を借受け新規就農されました。

当課は、S 氏の基本技術の習得を支援するにあたり、てん茶生産における被覆（遮光）技術、翌年の一番茶芽の生育を左右する秋整枝技術について重点的に支援しました。



一番茶摘採の様子

【普及活動の内容】

被覆栽培に関する知識・技術指導

抹茶の原料となるてん茶栽培で行う被覆（遮光）作業では、開始する時期の遅延や長期間の被覆によって茶樹に悪影響を与えてしまうため、正しい知識と技術が必要です。

そこで、適切な被覆技術の習得に向け、座学研修およびほ場での実践を支援しました。

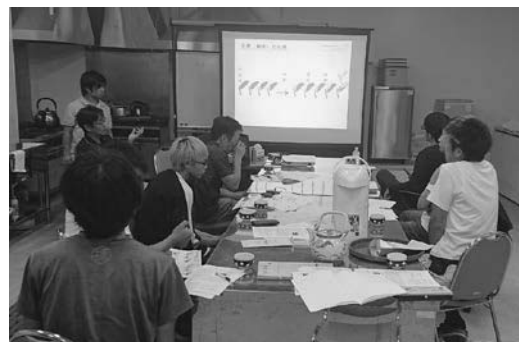


被覆栽培に関する知識・技術指導

秋整枝技術の指導

整枝とは次に伸びてくる芽を揃えるための刈り落とし作業で、次年度の一番茶芽の生育を確保するためには、秋に行う秋整枝が重要です。

そこで、試験研究機関と連携し研修会を開催し、秋整枝の適正な刈取り位置や適期について学んでもらい、現地でも実践を支援しました。



秋整枝の研修会

【普及活動の成果】

令和元年度においては、晩霜害の影響等もあり、目標としていた収量(120kg/10a)には達しませんでした。適期被覆、被覆期間について理解し実践されたことで、地域の中で比べても品質の高い茶を生産することができました。また、秋整枝技術についても理解され、適期に適正な位置での秋整枝を実践できたことで、次年度の一番茶の収量・品質向上が期待されます。

当課は、S 氏のような I ターン農業者が産地の良き新規就農者モデルとなるよう育成していくため、今後も技術・経営の習得を支援していきます。